若者は、語りかけてくれる大人を望んでいるよう

テストを残して後期の半期の授業を終えた。学生たちから次に類するようなたくさんの感想をいただいた。

・私はこの授業が一番好きです。命のこと、生きること、人と係わり合うこと、障がいのこと、沢山教えてもらう中で、私は今、“人に寄り添う、心に寄り添うこと”、“いつも考え続ける姿勢”が大事なのだと気づきました。

・授業を通して、“命は大事”と単に知識だけの言葉がしだいに意識へと変わり、認識へと変わりました。こんなに授業で心を動かされたのは初めてでした。

・保育士という、一般に保育のプロと呼ばれるような職についたとしても、「プロだから…」という考えや思いが少しでもあるならば、それは違うのだと思いました。保育士という職につくからこそ、常に子どものことを考え、どうかかわっていくかを考え追い続ける過程が大切であると気づくことができました。

・この授業を受ける前までは周りに流され、障害者とかかわることをこわいと思っていました。でも、そういう考えが自分の中で変わっていったことがとても嬉しいです。同情とかそういうのではなく、障害者について考えることのできる自分になれて良かったです。ありがとうございました。

・先生は自分の意見をもっていて、だれに反論されようがまちがっていると思えば戦い、参考になる意見だとうけ入れ、とてもすごいなあと思います。私も将来保育士になり、自分一人にまかせられる事があると思うので、たくさん経験を積んで、分からないことは積極的に質問していけばいいのかな？と思いました。

・授業でたくさんのビデオを見て、たくさん泣きました。授業も今まで受けたことのないとても心に残る授業になりました。命というものの奇跡を知ったし、保育士として、一人の人間としての知恵を学びました。先生が言われた事で、自分にガーンと響いたものがいくつもありました。保育士になる前に先生の授業を受けられて、とてもよかったです。保育士になって子どもをどうしたいのか、これを常に心に留めていこうと思います。

・今思うのは“子どもの気持ちに読み取り、勇気をもって行動できる保育者でありたい”ということです。困難なことにあっても、先生のようなファイトを思い出したいです。先生はなぜどんな人にも手を差し伸べるのか、そこには金銭もともなわないですよね。でも、人のために行動している姿は、とても尊敬しています。

阿部幸泰　　（2008 年 1 月 25 日　記）